

公益財団法人 国立京都国際会館 広報誌

秋 2013

ICCKyoto



2015年、京都国際会館での会議で、「工学」の本来の使命と価値を取り戻す

—2015年、京都国際会館での開催が決まった世界工学会議(WECC2015*)。開催国代表としてその中心を担う、公益社団法人日本工学会の会長、柘植綾夫氏に、会議への想いと、工学が目指すべき未来について伺いました。



柘植 綾夫氏 公益社団法人日本工学会会長
1967年東京大学工学部卒、1973年同博士課程修了。卒業後、三菱重工業株式会社に入社し、原子力発電の信頼性・安全性向上の研究に従事する。研究所長、技術本部長等を経て、2002年同社代表取締役・常務取締役技術本部長に就任。退任後も、内閣府総合科学技術会議常勤議員、芝浦工業大学学長等、工学および工業の発展のための活動を行う。

木下博夫館長(以下、木下)：2015年の世界工学会議(WECC2015)の会場として、当館をお選びいただき厚く御礼を申し上げます。当館はまもなく50周年を迎えますが、新しい時代の幕開けとして、この会議を全力でサポートさせていただきたいと思っています。

柘植綾夫氏(以下、柘植)：ありがとうございます。世界工学会議はこれまで5回開催されてきましたが、日本での正式な開催は今回が初です。私はこの会議を日本で、特に京都で行うことに大きな意義があると思っており、国策として成功させたいです。

今、社会から問われる工学の役割とは

木下：今回の会議テーマは「工学：イノベーションと社会」ということですが、とても大きな試みに取り組まれていますね。

柘植：通常の学会は学術分野別に行いますが、今回はあえてこのような大きなテーマを設定しました。工学が現在直面している社会的課題を真正面から捉え、工学全体に変化を生み出す大きなチャンスであると考えたためです。

木下：工学が直面している課題とは、具体的にどのようなものでしょうか。

柘植：現在、日本工学会は98の工学専門学協会で構成され、科学・技術の進展に伴い、さらに高度化・専門化が進んでいます。同時に関連する分野も広がり、科学者コミュニティにおいても全体が見渡しにくくなってきています。それにより、工学全体の使命や目標すらも見えづらくなってきている現状です。工学が社会から求められる使命に応えるためには、細分化されたこれらの分野を俯瞰しながら、社会システムや環境問題、人の心の分野など、時代に合わせた新たな視点に立脚して議論していく必要があります。

木下：技術発展が人類の幸福に寄与する、といいますが、分野が細分化されすぎて一般市民には理解しづらくなっているのかもしれないですね。

柘植：そうですね。これは今、日本工学会130年の歴史の中で最も厳しく問われている課題です。加えて、原発事故などの影響で失われつつある「科学技術に

対する社会の信頼」をどう取り戻していくかも重要です。専門家と一般市民、分野や国の垣根を越えた全体での議論を促し、社会から工学に求められる技術や価値を創造するきっかけを作り出すことが、今回の会議における日本工学会の役割だと考えています。

日本、京都での開催は、工学の原点を世界に示す絶好の機会

木下：今回、世界工学会議が日本で開催される意味合いについて、どのように捉えていますか。



会議場 Room A

柘植：今回は、世界工学会議のルーツとも言える万国工学会議が初めて日本で開催された当時と状況が重なります。1929年の第1回万国工学会議での目標は、1923年に起きた関東大震災以降にどれだけ日本社会が復興し、技術が発展したかを世界に示す、ということでした。

そして現在、日本は2011年の東日本大震災からの復興の只中にあります。すなわち、今日本で世界工学会議を開催することは、「社会と世界にとって価値あるものを創造する」という、工学の原点を日本から世界に対して発信する絶好の機会だと思っています。

木下：なるほど。そこで今回京都が開催地に選ばれたポイントはどこにおありだったのですか。

柘植：歴史と伝統、そしてイノベーションが共存する風土がある京都は、「工学：イノベーションと社会」というテーマを議論する場として最もふさわしいと思いました。また、京都は工学と密接に関係する「環境」の面でも重要な場所です。ものを無駄にしない、つまり環境負荷をかけない京都の伝統的ライフスタイルもそのひとつです。京都での開催が、社会における工学の役割へ対する議論をより有意義にすると確信しています。

木下：京都は観光都市というイメージが強いですが、長い歴史のなかで多数の伝統工芸品が生み出され、時代と共に進化を続ける「ものづくりの街」という側面もありますよね。

柘植：世界工学会議の開催期間中には、そのように伝統と歴史を守りながら未来に向けて革新的な活動をされている方々にご講演

をしていただく京都プログラムを計画しています。京都を拠点に科学技術の先端を行く企業のリーダーが参加されることは、京都開催の意義をより高めると考えています。

工学の社会的役割を、専門家と市民が共に議論する場に

木下：最後に、今回の会議運営の要はどこにあるか、お聞かせいただけますか。

柘植：工学が今後、社会と人々にどんな社会的価値を提供しようとしているのかを考えるために、参加者が積極的に議論し合い、「全体観」を持ってもらえるかどうか。これが、

この会議の要になると思います。工学の原点がどこであり、これからどこへ向かおうとしているのか、工学の「未来へ向けての出発点」を示す会議にしていきたいですし、私は必ずそうなると信じています。

*WECC2015 (World Engineers' Conference & Convention、開催日程：2015年11月29日～12月2日) 世界工学団体連盟(WFEO：World Federation of Engineering Organizations)が4年に一度開催する技術者・研究者・経営者の世界会議。WFEOに加盟する世界90カ国以上から約2,000名が集まり、世界のイノベーションと技術発展を討論・交流する。

木下 博夫 プロフィール
1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長などを経て、2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。



日本工学会の事務所に飾られているガンジー氏の肖像画の前で。ガンジー氏の言葉「100の説法より1の実行」は、柘植氏の工学教育におけるモットーとなっている。

当館の空間を彩る 美術品たち

来場者を導く「題名の無い美術品」。
京都国際会館では、空間に溶け込んだ「題名の無い美術品」が至る所に設置されています。そのひとつが、1階ロビーのクローク横、壁一面に取り付けられた巨大な石造のレリーフ。湾曲した複数の石の上に象徴的な円形の石が積み上げられ、その姿は波間に浮かぶ太陽にも見えます。制作者は、AAA*に在籍した2人の彫刻家、富樫一(とがし はじめ)と土屋武(つちや たけし)。彼らの挑戦的な試みは、1階 Room D 前ロビーの壁面に設置されたもうひとつのレリーフにも表れています。鋳物が石壁に埋め込まれた斬新な造りは柔らかさすら感じさせ、会議室へ来場者を導く「道しるべ」とも称され、人々の流れを見守っています。



石造レリーフ(1階 クローク横)



鋳物レリーフ(1階 Room D 前ロビー壁面)

【作者名】 富樫 一 (とがしはじめ)
【略歴】 昭和5年1月13日生まれ。昭和31年より自由美術協会展に出品、35年同会会員となる。42年昭和会展で優秀賞。石彫を主に野外彫刻を制作した。武蔵野美術学校(現武蔵野美大)卒。本名は美津雄。作品に「真空地帯」「石の波」など。

【作者名】 土屋 武 (つちやたけし)
【略歴】 昭和後期から平成初期の日本を代表する彫刻家の一人。主に、鉄や石といった素材を用いた作品を残している。1980年代以降は、「かたち」に注目し、そういった固い素材を使っているにもかかわらず「歩く鉄」等、動きのある表現をしている作品が多い。

*AAA …… Association des Artistes pour l' Architecture の略。建築家大谷幸夫氏が彫刻家である弟の大谷文男氏と相談し、若い美術家たちを集めて作ったグループ。

For you 宝松庵担当者が世界に伝える お茶を通した日本の心

宝松庵で茶道の魅力を伝えたい

京都国際会館の庭園奥に佇む茶室、宝松庵(ほうしょうあん)。障子を開けると木漏れ日が降り注ぎ、茶室としては珍しい、開放感のある部屋となります。
「毎年春と秋には、このお茶室で『宝松庵茶会』を開催しています。毎回約600名ものお客様をお迎えし、お茶に親しむ機会を提供させていただいています。」と語るの、お茶室を担当している京都国際会館の近藤千帆里(ちほり)さん。
京都で国際会議を開く意義は、日本文化の真髄に触れること。宝松庵は、海外からのゲストに日本

文化を体験していただく場でもあります。茶道に初めて触れる方も多いため、基本的な作法から丁寧に説明したり、また、つぶあんが苦手な方も多いため、お茶菓子にも気を配っているそうです。「茶道が初めての方でも『心が落ち着く』と喜んでくださるので、お茶を通して日本のおもてなしの心が伝わっているのだと実感します。裏千家千玄室大宗匠の『一碗からピースフルネスを』をもとに、日本の文化と伝統を国内外にもっと広めていきたいと思っています。」
宝松庵はご予約をいただければ、一般の方でもご利用が可能です。ぜひお気軽にお問い合わせください。



京都国際会館 宝松庵

朝まだき 嵐の山のさむければ 紅葉の錦 きぬ人ぞなき

藤原公任・拾遺集210

「朝がまだ早い嵐山は寒々としているので、山風で木々は色とりどりの紅葉を散らせ、美しい錦の衣を着ない人はいない。」



嵐山・渡月橋の紅葉

春は桜、秋は紅葉の名所として知られ、毎年多くの人が訪れる嵐山。この地は古くから風光明媚な名勝として都の貴族たちに愛され、とりわけこの写真のような山を背景に渡月橋と大井川が並ぶ風景は素晴らしいとされています。
嵐山は、和歌の題材としても古くから取り上げられてきました。四季折々で違う表情を見せる嵐山ですが、特に多く登場するのは秋の歌です。今回ご紹介する歌に登場する嵐山も、まさに紅葉の盛り。晩秋の景色が詠まれています。
この歌は、清少納言や紫式部とも親交があったといわれる歌人・藤原公任(ふじわらのきんと)が嵐山にある寺院「法輪寺」を訪れた際に詠んだもの。嵐山と山から吹き降ろす風を、そして風で舞い散った紅葉が付いた衣を錦の織物とかけています。黄、赤、橙、そして緑と、色とりどりの葉に覆われた嵐山の姿は、まさにこの歌の通り。色鮮やかな錦の布を被ったような美しさです。
日々色を変える紅葉の錦が姿を消した頃、京都にはいよいよ冬が訪れます。



京都国際会館 主催イベント

開催予定 第56回宝松庵茶会

2013年11月24日(日)
会場：国立京都国際会館 宝松庵

宝松庵茶会は1984年から始まり、今回は第56回目の開催となります。茶会のほか、香木を取り扱う老舗の(株)山田松香木店による『匂袋作りと香割実演』を行います。
洛北宝ヶ池のほとり、自然に恵まれた京都国際会館・宝松庵で、秋の優雅なひとときを皆様方にお楽しみいただければと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。



開催報告 乾杯の夕べ2013 ～響きあい♪陽気に乾杯! プローストゥ!(Prosit)～

7月21日～22日に開催した乾杯の夕べ2013は、京都・ケルン姉妹都市提携50周年を記念し、ドイツをテーマに様々なお料理を楽しめるブースを並べた他、バンド演奏や抽選会などを実施しました。プロジェクションマッピングやレーザーショーの後、最後は大輪の打ち上げ花火で幕を閉じました。開催期間中には、ケルンの生活や文化が映し出されたビュルン＝エリック・コーネン写真展も同時に行い、美しい情景写真を多数掲示しました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



地下鉄連絡通路の臨時広告掲出について

平成25年度より地下鉄国際会館駅と国立京都国際会館を結ぶ地下鉄連絡通路において、壁面とフロアを利用したシート広告の掲出を募集しております。催事の参加者が多く通る通路となるため、催事に合わせて商品やサービスをPRいただくことができます。是非ご検討ください。詳細はホームページをご覧ください。



壁面臨時シート広告
(イメージ)

お問い合わせ先: (公財)国立京都国際会館
総務・企画部 企画事業室
TEL: 075-705-1218
ホームページ: <http://www.icckyo.or.jp>

2013年10月～2014年3月開催予定のイベント・会合一覧

(2013年10月1日現在)

日程	催事名	人数
2013年		
10月6日～8日	第10回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	900人
10月11日～13日	第54回京都ユネスコ協会自然観察展	600人
10月17日～18日	第52回全国自治体病院学会	4,000人
10月24日～26日	第51回日本癌治療学会学術集会	8,100人
10月27日	エキスパートナース・フォーラム2013 静脈栄養・経腸栄養の実践的進め方	250人
10月28日～30日	第51回日本生物物理学会年会	1,500人
11月2日	看護国際フォーラム2013「今、あらためて『人によりそう看護』を考える」	500人
11月2日	第16回京都経営研究集会	500人
11月3日	第53回近畿理学療法学会学術大会	2,200人
11月10日～12日	第29回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	3,000人
11月15日～17日	日本精神分析学会第59回大会	1,350人
11月18日～21日	NACE International 東アジア太平洋地域国際会議 & エキスポ 2013	350人
11月23日	第50回日本糖尿病学会近畿地方会 第49回日本糖尿病協会近畿地方会	1,800人
11月24日	京都精華大学45周年記念ダライ・ラマ14世講演会	1,800人
11月24日	第56回(平成25年秋)宝松庵茶会	600人
12月2日	グローバル資本主義を越えて	300人
12月5日～7日	一般社団法人日本ライフオーガナイザー協会2013カンファレンス	400人
12月7日	スーパー・ビジネス・フォーラム	2,000人
12月13日～15日	ATAC 2013	600人
12月14日	第16回京都市PTAフェスティバル	4,000人
12月21日～22日	日本糖尿病療養指導士認定機構主催 第11回認定更新者用講習会(平成25年度)	600人
2014年		
1月17日～19日	第37回日本眼科学術学会学術総会	4,000人
2月1日～2日	第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会	4,000人
2月27日～3月1日	第41回日本集中治療医学会学術集会	5,000人
3月4日～6日	第13回日本再生医療学会総会	3,000人
3月9日	第14回日本糖尿病療養指導士認定試験	400人

※参加者200名以上の会議(参加者は概数)

第51回 日本癌治療学会 学術集会

ピックアップ
イベント

2013年10月24日～26日

「Bench to Home」をメインテーマとして、最新の癌の研究成果を含む教育・学術プログラムのもと、市民公開講座でのがん教育、小学生の親子を対象としたキッズスクールを企画し、我が国が直面する高齢化、地域・家庭でのがん患者ケア、若手臨床腫瘍医等の育成、関連学会との協調、国際化、社会への発信、がん患者とその家族の自主的活動への支援等を目指しています。

ATAC 2013

ピックアップ
イベント

2013年12月13日～15日

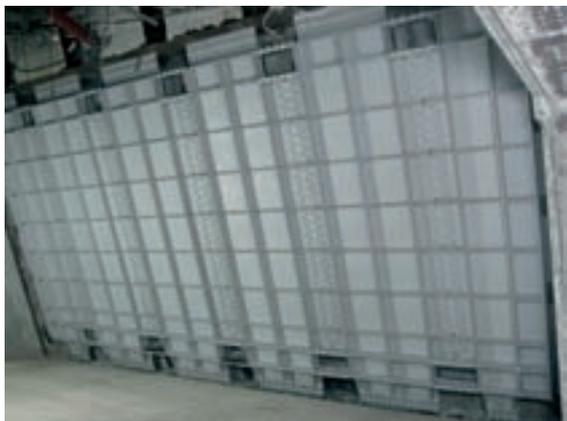
障害のある人や高齢者の自立した生活を助ける技術の普及を目的に、1996年以来毎年開催されています。専門家のセミナー、実践紹介、ユーザ自身による発表、世界の最新動向紹介など多数のセッションを自由に選択して学べる会議です。セミナーの他、展示あり、ライブショーありの自由な雰囲気の良い会です。

※ Assistive Technology & Augmentative Communication の略

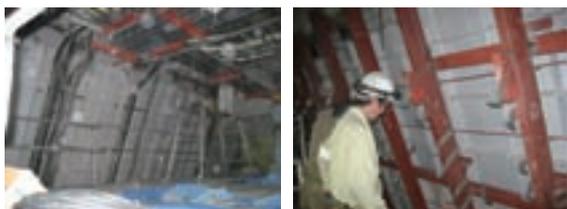
京都国際会館は、2016年の50周年に向けて 装い新たにリフレッシュしていきます。

現在、耐震・防災改修工事を行っております。
それに伴い、設備改修により最新の会議環境を構築する予定です。

【RoomA 制震パネル取付工事】



地震による揺れを吸収する「制震パネル」を設置。安心・安全な会議空間をご提供いたします。



(制震パネル取付設備復旧)

【メインラウンジ防災改修工事状況】



天井防災改修に伴い、高所のメンテナンス効率化の為、1階メインラウンジの間接照明には新しくLED照明を設置します。エコで安全な環境を演出します。

平成25年10月20日をもって、会議場Room Aの耐震改修工事及び内装改修工事は完了いたします。工事期間中は大変ご迷惑をおかけいたしました。引き続き耐震改修工事を進めてまいります。今後とも何卒ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

※ 工事中も通常通り営業をしております。
会場のご利用はお気軽にお問い合わせください。

▶ 「動画で楽しむ」京都国際会館

写真のみでは分からない当館の魅力を、
ぜひ動画でご覧ください。

お手持ちのスマートフォンもしくは携帯電話の
バーコードリーダーを起動し、右のQRコードを
読み取ってください。

(一部の端末では動作しない場合があります。)



編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
住所 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
TEL 075-705-1218
FAX 075-705-1100
E-mail com@icckyo.or.jp
URL http://www.icckyo.or.jp/

ICC Kyoto

Kyoto International Conference Center

国立京都国際会館

検索

© Kyoto International Conference Center. All rights reserved.
表紙: 善気山 法然院 萬無教寺